

「子育てケアマネ」を 全国に展開して、 こどもの未来保障を！

昨年の出生数は、ついに70万人を割ってしまいました。合計特殊出生率は8年連続で低下し1.2となり、東京都では1.0を切りました（0.99）。

少子化のトレンドを反転させるのは容易ではありません。それは、先進的な少子化対策を進めてきた欧州諸国における政策の限界を見れば明らかです。



私が幹事長を務める、超党派「こどもの貧困対策推進議員連」で石破総理に緊急提言

そこでは、そもそもその政策目的を、出生率のV字回復を目指す方針から、生まれてくるこどもや現に生まれてきた尊い命をしっかりと育てる（誰ひとり取り残さない）社会の実現への抜本的転換を提唱したいと思ひます。私たちは、生まれてくるこどもの減少を嘆く前に、児童虐待死が年間350件を超える現状を直視し、生まれてきたこどもの命と健康を守り育くむ責任を深く認識すべきです。

子育て家庭をしっかりと支える社会をつくる力基は、現金給付に加えて現物（サービス）給付の拡充です。私の提案は、大きく三つ。第一に、妊娠・出産の無償化。第二に、「子育てケアマネ」制度の導入。第三は、全ての子育て家庭に対する「保育保障」。キーワードは、「ユニバーサル」。全ての子育て家庭を対象とすべきです。

「未来に誇れる日本」 のために

日本は、今まさに歴史的な分水嶺に立たされています。

少子高齢化、人口減少、財政赤字、安全保障、そして世界経済の激動。

どれ一つとして単独では解決できない、複雑に絡み合った危機が私たちの未来を試しています。

高齢化率はすでに29%を超え、世界で最も高齢化が進んだ国となりました。一方で、生産年齢人口の急激な減少により、社会全体の担い手は減少の一途をたどり、支え手の負担は増え続けています。先進

第一の無償化では、妊娠から出産にかかる一切の経済的負担をゼロにします。第三の「保育保障」では、親の就労の有無を問わない真の「こども誰でも通園制度」の確立を急ぎます。さらに重要な第二の「子育てケアマネ」では、こどもの出産・育児についての心理的不安を払拭します。なんと母親の6割が生まれ育った土地以外で出産を経験し、4人に一人が産後うつに苦しみ、今や妊産婦の死亡原因のトップが自殺だということです。加えて、新生児の虐待死亡事例も増大しています。

このように今、多くのお母さんたちは「ワンオペ育児」に悩んでいます。そこで非常に参考になるのが、フィンランド発祥の「ネウボラ」制度です。

私は5年前、前自費でフィンランドを訪れ、ネウボラの現場を視察しました。ネウボラは、母子共に最も不安定な産前産後期から就学までの約7年間、「かかりつけ」の保健師・助産師さん（完全歩行型！）が家族全員の健康チェックや相談カウンセリングを通じて子育て家庭に寄り添い、リスクを早期に発見し、専門的な支援に結び付ける画期的な仕組みです。



「児童の養護と未来を考える議論」の会長として、児童虐待ゼロを目指します

かつての日本に根付いていた子育て家庭に対する親族や地域による助け合いの伝統を「子育てケアマネ」によって代替させ、親子を取り巻く環境を劇的に変えたいと思います。

国で最も深刻な財政赤字を抱え、私たちの社会保障制度は世界に誇る仕組みでありながら、その持続可能性に黄信号が灯っています。

私たちは、30年にわたる長いデフレの間を、ようやく抜け出しつつあります。

企業の賃上げ、働く人々の所得増、成長と分配の好循環―その手応えが見え始めた矢先に、ウクライナ戦争に端を発した国際的なエネルギー価格の高騰。そしてトランプ政権の再登場による世界の政治・経済の不安定化が、新たな逆風となつて私たちの前に立ちはだかっています。

安全保障環境は、戦後最も厳しく複雑です。私たちは今、核を保有する、中・露・北朝鮮の三力国に囲まれ、平和と安定を前提とした「戦後の常識」が通用しない時代に生きています。したがって、防衛力の強化と同時に、外交力・情報力・経済力・技術力を結集した「総合安全保障体制」の構築が急務です。

こうした状況の中で、政治が果たすべきは、国民の不安に「耳を傾ける」ことだけではありません。むしろ、将来に責任を持つ政治家として「未来を示す」こと。短期的な人気取りに陥ることなく、国家の針路を示し、確かな舵取りに全力を挙げることです。

そのために必要なのは、「未来への投資」―すなわち、「人への投資」「科学技術への投資」「経済と安全保障の基盤への投資」を軸に、持続可能な社会と成長の好循環を実現することです。

いよいよ夏の決戦、皆の力で勝ち抜こう！

ポスター掲示にご協力ください！

ご自宅の塀、お持ちの駐車場、空地、農地などに掲示させていただけませんか？

未来に誇れる日本へ！

総理大臣補佐官 国家安全保障担当

長島昭久

自民党 衆議院議員

ご協力いただける方は事務所までご一報ください！

都議会議員候補予定者



増山 あすか

現 1、政務調査会副会長
[府中市]



こいそ 明

現 6、前総務会長
[南多摩（多摩市・稲城市）]



武見 敬三

現 5、前厚生労働大臣
参議院自民党議員会長

参議院議員候補予定者

衆議院議員
内閣総理大臣補佐官

長島昭久

具体的には、

- ・こども・子育て支援と教育の無償化により、将来世代を育む土台をつくる。
- ・半導体、AI、ロボット、量子技術といった戦略産業に対して大胆な官民投資を行う。
- ・医療・介護・年金制度を「持続可能なかたち」に再設計し、支える世代と支えられる世代の共生を図る。
- ・戦略的外交と安全保障協力を車の両輪に、インド太平洋の平和と繁栄に日本が主導的役割を果たす。
- ・エネルギー安全保障と脱炭素革命(GX)によって、環境と成長を両立させる。

未来は、待っていても訪れません。つくるのは、私たち一人ひとりの意志と行動です。

私は、この危機を乗り越え、「未来に誇れる日本」を築くために、全身全霊をもって責任ある政治に邁進する覚悟です。

ホームページ・SNSで
情報発信中！



長島昭久プロフィール

【現職】 ●自由民主党・衆議院議員8期目 ●東京30区（府中市・多摩市・稲城市）選挙区支部長
●内閣総理大臣補佐官（国家安全保障担当） ●自由民主党組織運動本部長代理 ●衆議院財務金融委員会委員 ●超党派「児童虐待からこどもを守る議員の会」会長 ●超党派「こどもの貧困対策推進議員連盟」幹事長 ●「人権外交を超党派で考える議員連盟」会長 ●超党派「日華議員懇談会」副会長
●日本の尊厳と国益を守る会台湾問題分科会座長 ●日本スポーツ協会参与 ●日本スケート連盟会長 ●東京都軟式野球連盟会長 ●東京都剣道連盟会長 ●東京都ゴルフ連盟相談役 ●東京都ディスクゴルフ協会名誉会長
【来歴】 ●昭和37年（1962年）2月17日生まれ、寅年 ●慶應義塾大学大学院修了（憲法学） ●米国ジョージ・タウンズ大学（SAIS）で修士号取得 ●米国外交問題評議会 上席研究員 ●防衛大臣政務官、防衛副大臣を歴任 ●慶應義塾大学法学部講師、中央大学大学院公共政策研究科客員教授
【家族他】 ●府中市在住 ●家族は、妻と娘2人 ●趣味はスポーツ観戦（スケート・野球・大相撲など）、読書、水泳 ●大好物とんかつ ●苦手なもののジェットコースター

長島昭久後援会事務所

—後援会員募集中—

自由民主党東京都第三十選挙区支部 〒183-0022 東京都府中市宮西町 4-12-11 モア府中 2F
TEL：042-319-2118 FAX：042-319-2119 (E-mail) info@nagashima21.net 所蔵資料